

第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Efficacy of Thyrotropin-Releasing Hormone Analog for Protracted Disturbance of Consciousness due to Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage

脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血後の遷延性意識障害
に対する甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンの有効性

日本医科大学大学院医学研究科 救急医学分野
研究生 柴田 あみ

Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases (2019年) 掲載

DOI: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2018.12.036

本研究の目的は、Thyrotropin Releasing Hormone 酒石酸塩 (TRH-T) の有効性、及び意識障害改善に関する因子について解析することであった。クモ膜下出血で入院加療を行った208例を研究対象とした。TRH-Tを投与した97例の中で、TRH-T投与前の長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)スコアが20点未満であった31例(男性8例)について検討した。HDS-Rスコアはクリッピング術後7日目に1回目の評価を行い、担当医が必要と判断した症例に対してTRH-T 1日2mgを10日間投与、投与終了2日後に2回目の評価を行った。TRH-T投与前後のHDS-Rスコアを調査し、8点以上の上昇をgood outcome、8点未満の上昇をpoor outcomeと定義し、スコア改善の因子について検討を行った。TRH-T投与前後のHDS-Rスコアの平均は、投与前が9点(SD; 6.6)、投与後が19点(SD; 9.5)であり、19例(61.3%)がgood outcomeであった。TRH-T投与前のHDS-Rスコアが0から4点の群は他の群と比較して、有意にHDS-Rスコア改善が乏しかった($P=0.031$)。poor outcomeと関連した因子は、60歳以上($P=0.02$ 、オッズ比12.2)及びTRH-T投与前のHDS-Rスコアが4点以下($P=0.0118$ 、オッズ比11.9)であった。また、TRH-T非投与群と比較して、TRH-T投与群では有意にHDS-Rスコアが改善していた($P=0.003$)。以上から、脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血後の遷延性意識障害に対するTRH-T投与は有効であり、特に、若年でTRH-T投与前のHDS-Rスコアが5点以上の症例に有効である可能性を示唆した。

その後の質疑の中で、臨時審査委員および審査委員からは、TRH-Tの治療タイミングの意図、および今後の前向き研究を計画する際の研究デザインについて、主要評価項目であるHDS-Rの妥当性について、TRH-Tの薬理生理学的作用について等の質問がなされ、いずれも的確な回答を得た。